

# CELULAS



ピアザ  
NPO 法人 多言語 広場 セルラス

2016

Vol. 3

世界に通じる人材の育成をめざして

## CONTENTS

- P.2 「小さな外交官」  
インドネシアで活動するセルラスメンバー
- P.3 国際理解授業を支援しています！
- P.4-5 **特集：『ピアザ』**  
～ことばと心を開くためのホームグラウンド～
- P.6 セルラスが出会った留学生  
～イパンさん（インドネシア）～  
留学生に聞きました！  
～日本のココにびっくり<日常編>～
- P.7 セルラスクイズ  
お父さんの目線  
～セルラスに参加して見えた息子の成長～  
世界のレシピ  
～作ってみよう！ステファニーのマルタバツ・トゥロール～
- P.8 INFORMATION



NPO法人 多言語広場CELULASは、多言語習得活動を基盤として、世界に通じる人材育成の環境作りを目的とし  
2002年に内閣府の認証を得て設立された東京都所轄の特定非営利活動法人です。



まずは自己紹介から(^^♪  
アパカパール、私はセルラス中野ピアザの坂主たかねです。高2の時から、家族でセルラスの活動に参加して約10年になります。私は2015年の8月下旬から、国際交流基金が運営する「日本語パートナーズ派遣事業」のプログラムでインドネシアに来ています。アセアン諸国と日本の絆を深めるべく2014年より開始されたプログラムで、私はその中でもインドネシアの高校の日本語のクラスのアシスタントとして派遣されています。高校で日本語を学ぶ学生数はインドネシアが世界でも一番多いのです。日本語パートナーズはそんな学生たちに日本語を実際に使ってみる機会を提供し、先生のサポートを行うことで教育・学習意欲の向上を図ります。そして日本文化を現地の人に伝えることも大事な役割の一つです。  
一言でいうと「小さな外交官」。いろいろな人に日本を知ってもらい、日本とインドネシアの友好の懸け橋になれるよう頑張っています！

高校の先生方



11月25日は「先生の日」  
生徒が先生に感謝する日です。  
朝、私の机の上にも、  
生徒からのメッセージと  
お花が置かれていました。



## 『セルラスではぐくんだ、場面で聞く力』

インドネシアに来て、セルラスの体験が生きたこと。それは本当にたくさんあるのですが、今日はその中でも「場面で聞く力」について話したいと思います。

ある日私はインドネシアのある高校へ行く道で迷子になり、近くのホテルの警備員さんに道を尋ねました。

「permisi, saya mau ke SMA46 (すみません。SMA46にいきたいのですが)」

すると警備員さんは親切にもいろいろ教えてくれました。

「あぁ、SMA46、警察の近くですよ？  
バスでも行けますけど降りてから少し歩きますよ。」

私がバジャイ（バイクタクシー）を拾いますからちょっと待っててください。」  
そう言ってタクシーを拾ってくれて、しかもその運転手に「こちら日本から来たお客さんだから絶対安全に送り届けてくださいね。車体番号控えておきますから。」とまで念をおして、私をタクシーに乗せてくれました。



この警備員さんとのやりとり、実はこれをインドネシア語で書こうと思っても、もう出てきません。つまり、それぞれの単語は何をいっているのかさっぱりわからなかったのですが、でも言いたいこと、伝えようとしてくれることは全部わかりました。これはセルラスで鍛えている「場面で聞く力」ではないかと思えます。

## 『もう、わからない言葉はないぞっ！』

何を言っているか単語がわからないから聞けないのではなく、人と向き合って、その場面やジェスチャーから想像して聞こうとすると、塊で意味をとらえることができるのです。ことばはわからないけど何を言っているのか全部わかる。これってすごいことだと思います。「場面で聞く力」があれば、きっと何語でも（実際インドネシアではインドネシア語に限らずスダ語とかジャワ語とかいろんな言語が話されています。）恐れずに、目の前の人やことばに向き合うことができるのではないかと思います。こういう力は、海外で生活するには最強の力ではないでしょうか。

「もう何語でも来い！わからない言葉はないぞっ！」と、そんな気持ちで生活しています。（笑）

高校の授業風景



# セルラスは国際理解授業を積極的に支援します！

NPO法人多言語広場セルラスは、学校や団体からの要請を受けて国際理解授業の支援を行っています。

一緒に活動している様々な国出身の留学生に声をかけ、留学生は自国の言語や文化を、映像と一緒に遊ぶことを通して伝えます。

彼らも、日本の子どもたちや、地域の人たちと交流する機会を大変喜んでます。授業を受ける子どもたちは、今まで知らない遠い国が、留学生と遊ぶことで親しみを持った近い国に変わります。

2015年は、保育園から、幼稚園、小学校、中学校、高校、シニア世代グループまで、多様な団体の要請に応え、東京都、大阪府、兵庫県で実施しました。

## 授業の一例

2015年12月9日 新宿区立牛込仲之小学校

こちらの学校にはもう6年  
継続して訪問しています。



給食も各クラスで  
子どもたちと一緒に  
食べました！



左2番目から 香港・中国・マレーシア・トルコの4人の留学生

各クラスでは、留学生が趣向を凝らした映像を交えながら母国を紹介し、その後それぞれの国ならではの遊びをします。

## トルコ



「デベ・ジュジェ（ラクダ・小人）」という遊びをやりました。デベ（ラクダ）と言われたらデベは大きいから立つ、ジュジェ（小人）と言われたらジュジェは小さいからしゃがむという単純なゲーム。それを留学生の掛け声でみんなが動き、間違えた人は抜けていく勝ち抜き戦。単純だけど、とても盛り上がりました。

・・・児童の感想文より・・・

メルハバ！この前はトルコのことばやあそびをおしえてくれてありがとうございました。はじめてトルコのアルファベットを見てびっくりしました。水を「す」と言ったり、ヨーグルトにしおをかけたりするのがびっくりしました。いろいろおしえてくれてありがとうございました。ギュレギュレ！

## 中国



留学生自作のパワーポイントを使って国紹介をしたあと、誰でもすぐできる「スイカ割り太極拳」をやりました。

次に「あなたの家族は何人？」ゲームでみんなが、「你的家族几个人？」と聞くと、オニが数字を言って、その人数に集まって座るゲームです。子供たちは中国語の数もすぐに覚えて、夢中で遊びました。

・・・参加留学生の感想より・・・

- ・日本の子どもはとっても可愛い！
- ・興味をもって自分の話を聞いてくれて嬉しかった！
- ・聞いたトルコ語をすぐに使ってくれたのにはビックリ！
- ・給食を食べながら沢山話しかけてくれました。
- ・「私のお母さんは中国人なんだよ！」と嬉しそうに話してくれた子がいて、私も嬉しくなりました。

これはあくまでも一例です。セルラスでは各団体のご希望を聞き、担当者と数回の打ち合わせをしながら内容を決めていきます。国際理解授業支援の詳細は、セルラス事務局までお問い合わせください。

～ ことばと心を開くためのホームグラウンド ～

溝の口ピアザ 夏目里香  
 家族構成：夫・息子(小5)・娘(小2)



## ホームグラウンド ピアザ

ピアザに参加してまもなく5年になります。

この5年で出逢った人の数はざっと200人を超えます。老若男女、国籍も越えた出会いは今や私の自慢の財産です。専業主婦の私が、ママ友や学校関係以外でこれほどの出会いを持ってるとは想像もしていませんでした。これは子ども達にとっても同様で、家族、学校以外で大切な仲間がいるセルラス、特にピアザは、今や我が家の次に大切な場所(=ホーム)となっています。このピアザ、実は自分の中でとても盛り上がる日とそうでない日があります。

一つのバロメーターは「ロールプレイ」です。

ロールプレイが楽しかったかどうかで、ピアザの満足度ががらりと変わります。'今日のピアザはあまり楽しくなかった'と感じた時は、ロールプレイが楽しくなかったから。そしてその原因は自分のシャドウイングが足りないせいだとか、子供達がちゃんとやらなかったせいだと思い、親子で反省する日々もありました。

また、**合同ピアザ**などで大人だけでロールプレイをすると、とても楽しくて、こんな風にピアザでも出来たらどんなにいいだろう、何故同じように出来ないのかと毎年考えていました。これは、大人と子供の年齢差がポイントで、だからそれは埋めようのない、永遠のテーマなのだと思っていました。すると、昨年頃から同じことを子ども達も言い始めたのです。リーダーズトレーニングキャンプ、サマーキャンプから帰って来た子ども達がみな、口をそろえて「ロールプレイが一番楽しかった!!!」と興奮して語るのですが、最後は、「ピアザでは、この楽しさは多分味わえないと思う。子供だけだから楽しかったのかも。」と言うのです。

➤ **やっぱり、と思う反面、とても悲しい**とも思いました。年齢を越えて、様々な人がピアザに集い、一緒に多言語習得活動をするから楽しくことばが育めるはずなのに、これでは一緒に出来ないということになってしまう。そうではないはず、なぜそうになってしまうのだろう？と私は改めて考えるようになりました。

## 実は高度なことをさりりとしている！？ ピアザ活動

「ことばを話す」ということは、知ってる単語を発する以前に、「相手を理解しようとする気持ちを持ち、人と向き合うこと」がまずは一番大切である事を見つけ、実践しようと私達は活動しています。

「人と向き合う」ここに一つヒントがありました。同じ年齢層、または同じ性別の人の集まりでは、人と向き合うのは比較的容易にできます。同じ話題、同じ悩み、同じ趣味嗜好、「同じ」が多いと距離を縮めるのもスムーズです。そう考えると、大人だけが集う場やサマーキャンプでの集まりは、人と向き合うのがとても楽な集団です。だから、意思疎通が楽で、ロールプレイも楽しくできる。「容易」、「楽」。これは何と比べてそうなのかというと、ピアザと比べてそう思うのです。

そして私は**気付きました**。ピアザははるく高度な事をしている場所なのだ。年齢、国籍、仕事、価値観、すべて異なる人々が集まるのがピアザ。そこで、唯一の共通項である、ストーリーブックのお話をツールに、一緒にロールプレイをし、そこから話題を膨らませ、共通の物語を創り、ことばを育てていく。

**習い事感覚、お客様感覚**でいたために、不満が募っていたのだと気づきました。自分もセルラスの一員として主体的に関わり、活動を楽しむ。そういう姿勢でいると、セルラスの中に面白いことがたくさんあることに気付いたのです。徐々に「子どものために参加」していたピアザが「自分のために参加」するに変化していききました。すると不思議なことにグダグダなピアザでもあまり気にならなくなってきたのです。もちろん、まだまだイラツとする事もありますが(笑)

**イライラする原因は、子どもに対して、知らず知らずのうちに期待をかけ、目に見える成果にとられすぎたことかな**と思います。確かにセルラスは面白い環境です。素晴らしい変化を遂げた子どもがたくさんいます。セルラスという場を体験させることは、きつとプラスになると思っているからこそ、子供と一緒に参加しています。しかし、もしかしたら目の前の子どもには、何の芽も出ないかもかもしれません。いくら親が良いと思っても、そこから何を掴むかは、本人でないとわからない。そしてそれはすぐに結果が出ることはばかりではありません。そうであれば、子どものことは一旦脇に置き、できるだけ期待は手放して、自分がこの場を楽しむ事に主眼を置こうと考えるようになりました。

**短期間で見える成果を出すことに**あまりにも慣れ過ぎ、長い時間軸で考えることや、一見無駄とも思えるような時間を許容できなくなっていることに気づかされました。色々な体験、また考えを巡らせた今、あれだけ億劫だったピアザは、私にとって居心地の良いホームに変わったような気がしています。

これから仲間と共に、どんな事を発見していけるのか、楽しみます。



しかも、先生はいないから、進行、内容、すべて自分達で話し、考えながら1時間半の時間を過ごします。毎回メンバーが違う場合もあり、内容もその都度変わります。

**こう考えると、**ピアザは相当なコミュニケーション力が必要で、人と向き合わなければならない場所なのです。その場所で、私達は毎週、知らず知らずにある意味鍛えられていくのです。ある日は3歳児とのロールプレイ、そしてまたある日は人生の大先輩の方とロールプレイをしながら。人と一緒に、楽しみながら、臨機応変に。

そんな中で、スーパーピアザやキャンプに参加するとどうでしょう、共通項の多い者の集まりだから、普段とは雲泥の差の、楽なコミュニケーション、楽しいロールプレイが出来るのではないのでしょうか。

**海外へのホームステイでも、**見知らぬ国、初対面の人、ことばもつたない状況で、それでも心から楽しい交流が出来るのは、ピアザでコツコツと培われてきた、「人に向かう力」が育っているからこそ実現できるのだと思うのです。**私はピアザ活動の凄さを改めて感じました。**

## ピアザで育ち、見つけた宝物

**またピアザでは、**沢山のメンバーの変化、成長を目の当たりにします。人前で以前ほど緊張せずに話せるようになる、自己紹介が出来るようになる、相手の国の言葉で挨拶が出来るようになる、初対面の人に自分から話しかけられるようになる、心からの挨拶が出来るようになる、多言語が話せると同時に、世界の国がとても近く感じるようになる、受け入れが楽しくなる、プレゼンが出来るようになる等、メンバーの数だけその変化があると思います。

**これは決して**一朝一夕でなされたものではなく、毎回のピアザで少しずつ積み重ねてきた結果です。いつものピアザではなかなか気づかないものですが、普段のピアザから一歩外(＝アウェイ※)に出ると、その変化・成長に気付くことが多いのではないのでしょうか。例えば、サマーキャンプやリゾートだったり。大人だと、合同ピアザやフェスティバル、スーパーピアザ等で新しい自分を見つけることがあります。また逆に、外からピアザに戻った時に、変化した自分に気付くということもあります。

**ある小学4年生の女の子は、**入会して約2年、自己紹介を人前ですることができませんでした。どんなに周りの友達に励まされ、助けてもらっても「間違ったらどうしてくれるの？あなたの責任だよ！」って心の中で怒っていました。ところが、2度目のキャンプから戻った翌日のピアザで、周りのメンバーや親御さんまでが、同一人物かと驚くほどに、堰を切ったようにキャンプでの出来事を報告してくれたのです。

**彼女曰く**「何故話せるようになったのかはわからない。でも、ピアザの皆に、こんなに楽しかったキャンプの事を教えてあげたくて仕方がなかった。今までは、失敗したらどうしようと思うと勝手に涙が出てきて話せなかったけど、今は失敗したらなんて考えなくなった。自分の言いたい事を言えればいいと思えるようになった」と話してくれました。

このお話は、とすると「人前で泣かずに話が出来るようになった話」として終わりそうになりますが、仲間と一緒に彼女の変化を話し合っていると、いろいろ気付いたことがありました。

彼女は、教えられたり指示されたりして行動したのではなく、自身の中で見つけたことを行動に移しました。自分で楽しみを見つけることで、彼女は確実にピアザに「来ている人」から「ピアザと一緒に創りだす人」へと変化したのです。

自分の内側から見つける、この変化こそ、彼女の大きな成長なのです。



Goody!



**「受け身」から「能動的」に変わること。**なかなか難しい挑戦かも知れません。しかし、私達の多言語習得を基盤にした、**ホームグラウンド・ピアザ**での活動は、それを可能にし、**アウェイ**で羽ばたける力を付ける場になると私は確信しています。

※セルラスのアウェイは決して敵地のことではなく、社会や世界という意味も含んでいます。

次に、実際に「受け身」から「能動的」に変化した大人メンバーの話をご紹介します。

『億劫だったピアザが居心地の良いホームへ』

烏山木曜ピアザ 岡本由香  
家族構成：夫・娘（年長）



**昨年の秋、私はセルラスを継続するか迷っていました。**セルラスの理念に共感して入会し、すでに一年以上が経過していましたが、毎週のピアザに意義を見出すことができずにいました。当時仕事が忙しかったこともあり、ピアザには遅刻、欠席気味でした。参加する時も、億劫な気持ちを抱えていました。せつかく参加しても、子供達が乗ってこないときはグダグダのまま時間が過ぎてしまう。ロールプレイは今一つよくわからない。楽しいと感じない成果につながっていない実感もない。貴重な時間をいいたい私は何のために使っているのだろうか。そんな思いが拭えずにいました。

**このままセルラスを続けるのか辞めるのか。**悩んだ末に、私は試しに今まで以上に、セルラスと関わってみようと思えました。毎週のピアザ以外に、茶話会に参加したり、国際理解授業ポランティア、所属以外のピアザ訪問などをしてみました。そこで様々な方とお話しする機会に恵まれてくださったの発見をしました。ピアザのお母さんメンバーで集まった茶話会では、コーディネーターは先生ではなく、答えを持つていて人でもないということにハッと気づきました。頭では理解していたつもりでしたが、やっとな腹に落ちました。また、他のお母さん方の育児の悩みやセルラスへの想い（ポジティブな事もネガティブな事も）を聞いて、共感したり、新たな一面を見た気がしたり。今までより深く交流が持てたような気がしました。

**様々な活動に参加すればするほど、**セルラスやピアザに対して「楽しい」という気持ち芽生えてきました。メンバーと関わるのが何より楽しい時間に思えるようになったのです。なぜそういう感情が芽生えたのか、今まで何が違うのかと考えると、一番の違いは自分の姿勢でした。今までの私は、セルラスに対して非常に受け身でした。セルラスでは誰も何も教えてはくれません。いわゆる「習い事」ではなく、言語習得やコミュニケーションについて考えて実践、実践していく「NPO」なのです。

# セルラスが出会った留学生

## Irvan Ipan (イパン)

インドネシア ジャカルタ出身



東京工業大学 助教・博士(工学) 人口知能(AI)専門分野

東京工業大学在学中の2012年及び2013年にセルラスの青少年サマーキャンプに、2014年春にセルラス青少年リーダーズトレーニングキャンプに留学生リーダーとして参加。夢を持つことの大切さを子どもたちに語ってくれました。



### 日本への興味から留学へ

私は小学生の時に初めてコンピューターを手にして、すごく興味をもちました。そして日本の企業がコンピューターの開発に携わっていることを知り、日本の技術に憧れました。その頃から、いつか日本で勉強をしたいと夢を持つようになり、日本への留学のため、さまざまな奨学金に応募し、テストを受け、面接に参加しました。ようやく合格できた時は、自分だけでなく家族のみんなも喜びました。

### 日本で驚いたこと

#### ① 電車

日本に来て初めて電車に乗りました。電車が定刻通りにくる事、綺麗な車両、路線がたくさんあることに感動しました。私が育ったジャカルタでは公共交通機関が未発達でほとんどの人がバイクや車で通勤通学をしています。

#### ② 高い物価

ほとんどのインドネシア人にとって、とにかく日本の物価が高い！とっても高い！！たとえばスーパーで野菜や果物の値段をみて、嘘でしょう！！！！と思いました。母国で1キロぐらい買えるりんごの値段で東京では、たった一つしか買えません！食べ物以外に家賃も交通費もなんでも母国より数倍ぐらい高い！こんなに物価が高い国で一人暮らしをするので、お金の使い方や管理の仕方を学ぶようになり、自分はやっと大人に成長したと思いました。

今はもう違いますが、当時はほとんどの日本の銀行では日本に住んで半年以下の外国人は口座をもつことができなかったため、しばらくベッドの下にお金をかくしていました・・・

#### ③ 先輩・後輩

日本の先輩後輩の文化にも驚きました。インドネシアには似たような文化や言葉が存在しない為、違和感を感じていました。なぜ日本の社会はそこまで先輩後輩にこだわるのか、まだよくわかりませんが、日本文化のチャームポイントなのかもしれません。

### セルラス青少年サマーキャンプの留学生リーダーに

大学には留学生センターがあり、セルラスキャンプの事もここで知りました。楽しそうなパンフレットを見て、迷わず応募しました。子供が様々な国から来た人と自然の中で一緒に活動したり、文化交流したり、遊んだりするコンセプトは魅力的でした。日本の子供たちが世界を知ることができ、世界の遊びも体験して、キャンプ後に海外にホームステイしてみたくなったりして、とても素敵です。



私もキャンプで日本の小中高のことも勉強になり、子供たちから学校の文化祭や運動会の話聞いて、自分もいつか見に行きたくなりました。そしてまたセルラスキャンプに参加したいと思っています。

最近では2020年オリンピックの影響で、様々なところが外国人やこれからの留学生にとって行きやすくなると信じています。私は日本人のことはすごくやさしいという印象をもっています。昔、人見知りのインドアタイプな人間だった私を、少しずつ明るいキャラクターに変えてくれている日本にとっても感謝しています。

私も卒業して、日本の技術にも、もちろん憧れますが、文化や日本人も、もっともっと好きになりました。これからもこんな私ですが、よろしくお祈りします。



セルラス？

これは、昔ロシアで使われていた『サモワール』という道具なのですが、何に使うのでしょうか？



中はこんなふうになってるよ



道で車がむやみにクラクションを鳴らさない。(運転手さんはがまんしてるんじゃないの?)...インド

住所と郵便受けの意味が分からなかった。(ロッカーとして使ってたよ。私の国では私書箱制だから)...モンゴル

修学旅行の団体行動に驚く。(誰もいなくならないなんてすごい!)...オーストラリア

宅急便の2時間指定(きっちり指定時間に来てくれるよね)...韓国その他

お母さんに怒られているのに、(私の国では、むちで打たれます)...ウガンダ

言つことを聞かない子供がいる。

# お父さんの目線

## セルラスに参加して見た息子の成長

古館正啓 (横浜土曜ピアザ)

科学機器メーカー勤務 サービスエンジニア



セルラスに入ってもうすぐ2年になります。週に一回、妻と息子(小4)と3人で参加しています。

私の仕事は基本的に国内で、お客さんも日本人ですが、昨年、スペイン人と一緒に仕事をする機会がありました。私が「Hola!」というと、彼はなんと「私の名前はエンリケです。よろしくお願ひします。」と日本語で挨拶。日本に来るのでわざわざ勉強したそうです。それがなんとなく嬉しくて、距離がぐっと縮まったように思います。

社内の会話は当然英語で、お互いあまり得意ではなく、彼のスペイン語なまりの英語に慣れるまでかなり苦労しました。

しかし、仕事抜きで食事に行ったり、スペインのことを教えてもらったりと楽しい時間を過ごせたのは、彼が相手の国に興味を持ち、理解を示す姿勢を持ってきていたからと感じています。自分もセルラスを通して、ますます自然に彼のようなオープンな態度をとれるようになりたいと思う一件でした。

セルラスの魅力の一つは家族と成長する時間を共有できるということでしょうか。ピアザは「子供の習い事」でもなく「大人の趣味の会」でもありません。大人も子供も一緒に活動に参加し、シャドーイングやロールプレイをして、ストーリーを共有します。我が家はあまり熱心にシャドーイングしているとは言えませんが、息子と一緒に風呂に入りながらCDを流したりしています。しかしある時、聴いていた様子もなかった息子が突然、「One of the best part of the ...」と英語の発音でCDのフレーズを口にしていました。

ストーリーブックは読めないはずなので、聴いたままをそのまま口に出していたのだと思います。このような子供の成長を感じる体験も、一緒に聴いていなければ、何を言っているか分からず気付かなかったかもしれません。

普段一緒にいる時間の少ない父親は、子供が友達や他の大人とどうつきあい、何を話すかなんて、なかなか見る機会がないのが実情ではないでしょうか。ピアザでは、子供も発言を求められる機会が多く、「ハワイに行きたい」「英語を話せるようになりたい」など、家では話さないことを言ったりします。大好きなお兄さんや、自分を認めてくれる大人たちがいる環境によるものかもしれませんが、意外と周囲に気を使っている、息子のちょっと大人な一面を見ることもできました。

そんな父親にとっても面白味のあるセルラスですが、ピアザには女性と子供が多く、大人の男性は少ないです。とは言え、お父さん方の参加しない気持ちもわかります。正直、疲れてますし(笑)ちょっと面倒くさかったり、恥ずかしかったりすることもあります。休みの時は、うちでゆっくりテレビを見ながらビールを飲んだりもしたいです。

ただ、それも飽きたら、家族と一緒に少し変わった時間を過ごされるのもいかがでしょうか。すごい衝撃はないかもしれませんが、ちょっとした発見はあるかもしれませんよ。

中野ピアザに通っています

## 作ってみよう! ステファニーのマルタバツ・トゥロール@インドネシア

<<材料>> (10個分)



- ・鶏ひき肉 250g
- ・卵 4個
- ・玉ねぎ 半個
- ・塩 小さじ1.5
- ・長ねぎ 1本
- ・コショウ 少々
- ・にんにく 2片
- ・油 適量



- ・薄力粉 350g
- ・塩 小さじ2
- ・水 200ml
- ・油 適量

\*皮は春巻きの皮でも代用できます。その場合、10枚



<<作り方>>

### ●皮をこねる

- ①薄力粉に塩を入れ、水を少しずつ加えながらよく混ぜ、一つにまとめたら、耳たぶぐらいの柔らかさになるまでよくこねて生地を作る。
- ②一口大ぐらい(少し大きめ)に丸め、団子状の生地が被るぐらいサラダ油を入れたボールの中に入れておく。

### ●具を準備する

- ①にんにく、玉ねぎをみじん切りに、長ねぎを小口切りにする。
- ②フライパンにサラダ油を少し入れ、にんにく→鶏ひき肉を入れて炒め、取り出して、冷ましておく。
- ③ボールに卵を入れて溶き、そこに刻んだ生の玉ねぎと長ねぎを入れ、炒めた鶏ひき肉を入れ軽く混ぜ、塩、コショウを入れる。(具は卵がゆるい液状のまま)

### ●焼く

- ①サランラップを敷いたテーブルなど平らな所に、サラダ油につけておいた団子状の生地を取り出し、平らに丸く伸ばす。(きちんと丸くなく、真四角っぽくてもOK)できるだけ薄く伸ばすとよい。
- ②フライパンに油を少し多めに入れて、弱火にし、皮をのせてすぐに真ん中に具をのせる。(卵が少し流れ出てしまっても気にしないでまとめる)
- ③皮の四辺を手早く順番に真ん中に、具に被せるように折り曲げていき、スクエア型にする。
- ④油をかけながら、焼き上げる。(揚げ焼きのような感じ。皮が厚めの場合、焼けてきたら、ひっくり返してもよい)

\*お好みで「サンバル」(辛いソース)をつけるとインドネシア感が増します。チーズや野菜を入れても美味!



## 行ってみようよ！《スーパーピアザ》

2016年1月から始まったスーパーピアザは、大人の会員がピアザを超えて、お互いの体験や最前線の情報を共有できる場として、また事前の課題などでハードルを高くせずに、多くのメンバーが毎回気軽に参加できる場を目指しています。普段のピアザで出来ない事、大人だけだからこそのディスカッション。ネガティブなことも、ポジティブなことも、沢山話して、一緒に悩んで、皆で大笑いして。濃いロールプレイもやってみたり！  
ここだからこそのことをやってみたい、そんな皆さんの要望を反映させて、楽しい新たな環境として始まっています。

スーパーピアザは、メンバー有志とコーディネーターが一緒になって、一回ごとに準備会を行っています。

**しかもこの準備会がめちゃめちゃ面白いという噂が〜♪**

同じ参加するなら創るプロセスに関わった方が数倍面白い！これを体感してみてください。参加者みんなで作る体験を通して、それぞれのピアザ作りにも能動的に関わる姿勢を培って欲しいと願っています。

**この新しい環境、是非一度お試しあれ！！**

### 引き続き、原稿大募集！

セルラスの活動を通じての体験、変化、発見、等々、あなたの思いを広報チームにお寄せ下さい！応募者には**セルラス特製缶バッジ**をプレゼント。広報紙に採用の方にはさらに**特大缶バッジ**もプレゼント致します！

注）原稿は随時受け付けますが、毎月末締切とさせていただきます。  
また、応募規定があります。詳しくは各ピアザコーディネーターまでお問い合わせください。



溝のロピアザ 早川潤哉くん(小2) 作

セルラスでは、全国各地で様々なイベントを開催中です。詳しくはセルラス ホームページをご覧ください！メルマガも随時配信中！



発行元  
ピアザ セルラス  
**NPO法人 多言語広場CELULAS**  
本部事務局  
〒151-0053  
東京都渋谷区代々木2-23-1 ニュースイト対-1038  
TEL: 03-5333-8202 (代表) FAX: 03-5333-8203  
関西事務所  
〒553-0007  
大阪市福島区大開1-10-10  
TEL & FAX: 06-7493-7931  
URL: <http://www.celulas.or.jp>  
e-mail: [info@celulas.or.jp](mailto:info@celulas.or.jp)

セルラスクイズ答...湯沸かし器

### = 編集後記 =

今回の機関紙は「ピアザ」がテーマでした。いかがでしたか？様々な年代が集うピアザは、多くの発見があって楽しい反面、皆の意見や意識を通わせることが難しく感じられることもあるのではないのでしょうか。セルラスでは現在、全ての会員が正会員となり、メンバー全員で「世界に通じる人材育成の環境」を創り出そうとしています。

先日、複数のピアザ合同で留学生を招いての節分ピアザを開催するにあたり、当日のプログラムをどうするか悩んでいたところ、中学生と小学生が皆の意見を取りまとめ、あっという間にプログラムとタイムテーブルを決めてくれました。片づけの時間まで考えてのタイムテーブルには感心させられました。メンバー全員で意見を出し合いピアザを創り出す方が、その過程においても多くの宝物を手に入れることができるのだと感じた出来事でした。

この機関紙を通して、皆さんがピアザに対して新しい発見をしていただければ幸いです。そしてその発見から新しいセルラスが創造されていくことを願っています。

広報プロジェクトチーム一同